

# 患サポ通信

— ささえちゃん便り —

第 95 号



## 子宮体癌に対するロボット支援下子宮悪性腫瘍手術のお知らせ



2018年の診療報酬改定で子宮体癌に対するロボット支援下子宮悪性腫瘍手術、良性疾患に対するロボット支援下子宮全摘術が保険収載となりました。当科でも2019年3月から早期子宮体癌に対するロボット支援下手術を導入致しました。2022年1月までに21例の患者様に対して安全に本手術を提供してまいりました。当院では最新の内視鏡手術支援ロボット（ダヴィンチ®）が2台導入されており、手術待機時間の短縮と適応があるより多くの患者様に本治療を提供することが可能になると考えております。さらに、今後は良性腫瘍に対するロボット支援下手術の導入も検討しております。

もし、ロボット支援下手術のご希望のある患者様がございましたら、積極的にご紹介いただけますと幸いです。

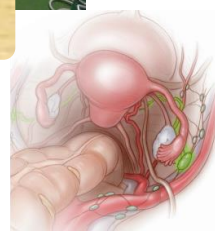
福島県立医科大学 産科婦人科

### ロボット支援手術風景

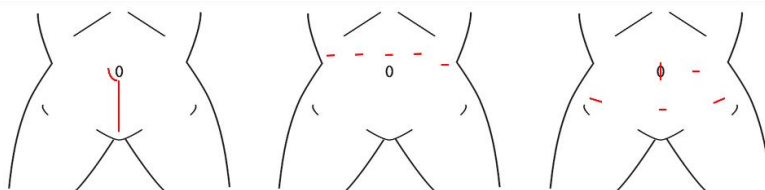


### ロボット支援下子宮悪性腫瘍手術の適応

- 早期の子宮体癌（IA期）であること
- 組織型が類内膜癌G1又はG2であること



### 子宮体癌手術での術式による傷の違い



従来の開腹手術

ロボット支援下手術

腹腔鏡下手術



## 膵腫瘍に対するロボット支援手術のお知らせ



2021年6月より、福島県立医科大学肝胆膵・移植外科では、内視鏡手術支援ロボットとして米国 Intuitive Surgical 社製のダビンチ Si を用いて、膵腫瘍に対する手術を行っております。現在は、同社製ダビンチ Xi を使用しています。

肝胆膵領域の疾患に対する手術の多くは、高難易度の手術に位置付けられています。高難度手術は、患者さんへの負担が大きく、術後合併症が起こりやすく、長期間の入院を必要とする場合もございます。開腹で手術を行う場合には大きな創を必要とするために術後の痛みが強く、術後の回復に影響を与えてきました。一方で、創の小さい内視鏡手術（腹腔鏡手術・ロボット支援手術）では術後の痛みが少ないために早期回復・早期退院が期待できます。

当院では、以前より腹腔鏡手術を積極的に行なってきましたが、今後は、内視鏡手術支援ロボットの利点を活かして、「より安全」に「より低侵襲」な手術を提供していきたいと思っております。2022年2月現在までにロボット支援下膵体尾部切除術を5例に施行しております。

今後、膵頭部腫瘍の患者さんにロボット支援下膵頭十二指腸切除術を提供できるよう準備を進めているところです。また、2022年4月からは肝腫瘍に対するロボット支援手術が保険収載される予定で、肝腫瘍の患者さんにも負担の少ない、安全性の高い手術の提供を目指しております。

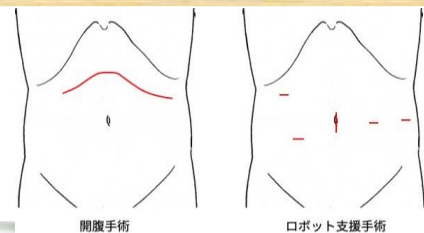
肝胆膵手術を必要とする患者さんがいらっしゃいましたら、いつでもご紹介ください。よろしくお願いたします。

ロボット支援手術を担当している丸橋先生



福島県立医科大学 肝胆膵・移植外科

膵体尾部切除術における  
開腹手術とロボット支援手術の創の違い



ロボット支援手術風景

